



## 団体名 東京都公立学校情緒障害教育研究会

### 団体の概要

本会（略称：都情研）は東京都の特別支援教育の充実・発展に寄与することを目的とし、情緒障害教育、発達障害教育等に関する専門研修を通して、教職員の専門性向上を目指している。研修会は全都の公立幼・小・中学校教職員、区市町村教育委員会職員等が対象となる。

### 発表テーマ

「特別支援教室における特性に応じた指導の工夫」

### 今年度の活動

全ての小中学校に特別支援教室が設置され、「特別支援教室」による支援体制が、完全実施となった。利用者は、小学生約2万3千人、中学生約5千人と昨年に続き急増している。また、その指導にあたる教員も小中学校合わせて約2800人となり、そのうち発達障害教育の経験年数5年以下が約8割、そのうち2年以下が約5割となっている(本会実態調査より)。引き続き教員の専門性の向上が急務となっている。教師の学びを止めないことを念頭に、総会記念講演では、渡辺秀貴先生（創価大学教授）をお招きし「学校経営の視点から特別支援教室を考える」と題してご講演をいただいた。今年度の研修は、感染症対策のため、規模を縮小しての集合研修と動画視聴による研修を組み合わせ実施し、のべ4500人を超える参加者があった。また、11月の研究大会兼秋季セミナーでは都内6会場（参加者約550人）をZoomでつなぎ、水野薫先生(SpaceZeroPDD 心理教育研究所所長)による講演動画の視聴と協議を行った。その講演や協議の内容を元に以下を提案する。

### 「障害特性に応じた指導の工夫とは」～発達段階と適時適切な指導について～

特別支援教室運営ガイドライン（改訂版）が示され、「原則の指導期間1年」等が明記された。これは、単に「1年間で指導を終了する」という表面的なことだけでなく、「入室段階からのアセスメントを適切に行い、対象児の明確化を図ること」、「各年代の発達段階と障害特性を踏まえ、指導課題を明確にし、目標を設定すること」、「指導の振り返りを定期的に行い、必要な指導が必要な時期に必要な時間行うこと」といった当たり前のことを適切に行うことと理解する必要がある。その際に、入室の段階から通常の学級での表面的な適応に左右されることなく、担任の安定した学級経営を前提とし、障害特性に基づく長期的、本質的な子どもたちの課題を見極めることが大切である。その上での連携した指導が効果的な「通級による指導」であると発信していく必要がある。

### 連絡先 代表者

代表者：墨田区立錦糸小学校 校長 伊藤康次

連絡先：西東京市立東伏見小学校 指導教諭 上山雅久 電話番号 042-463-4517